

富山経協



サフラン (解説・8ページ)

CONTENTS

- 2 9月度理事会、富山地区会員懇談会 (報告)
- 3 富山地区会員懇談会 (講演要旨)
- 4 TOP INTERVIEW
朝日印刷 濱尚 社長
- 6 調査報告
高年齢者雇用に関する調査
女性社員意識調査
- 7 業務日誌
- 8 Keikyo行事レポート
- 10 参加者NOTES
- 15 富山県生活環境文化部との情報交換 (発表要旨)
- 16 新会員紹介
- 16 富山県の最低賃金
- 17 景況指標
- 18 おしらせ・事業予定



9月13日(金) 17時から「9月度理事会」を、理事6名、監事3名が出席し、富山第一ホテル2階 橘の間で開催した。

出席理事数、出席監事数の報告を行い、定款第30条の定めにより成立していることを確認し、稲垣代表理事が議長となり議事に入った。

・長野県経営者協会との連携の件

北陸新幹線の開業を視野に隣県との連携を強化する。その一環として当協会との役員協議会を行う案について、全員異議なく承認された。

・新会員承認の件

「オフィスクリエイション」「富山エフエム放送株式会社」の入会について全員異議なく承認された。

富山地区会員懇談会

9月13日(金) 17時30分から、「富山地区会員懇談会」を富山第一ホテル3階 白鳳・天平の間で167名が参加し、開催した。

時事通信社経済部長の境克彦氏が「日本経済の展望と課題」と題して講演した。

その後、懇親会を行い、初めに稲垣会長から新会員の「富山エフエム放送株式会社」の紹介があり、松岡副会長の開会挨拶、石井県知事の挨拶の後、稲垣会長が日本酒で乾杯の音頭をとった。和やかな懇談の後、山地監事が中締めを行い、散会した。



開会挨拶の松岡副会長



石井知事からご挨拶



稲垣会長の乾杯



山地監事による中締め



講演会



「日本経済の展望と課題」

時事通信社 経済部長 境 克彦氏



1. アベノミクスの展開

昨年の衆議院選で、安倍総裁が三本の矢（①大胆な金融緩和、②機動的な財政政策、③民間投資を喚起する成長戦略）を打ち出して政権をとり、円相場は2～3割下落し、株価は約7割上昇した。

1本目の金融緩和は、4月4日の日銀の金融政策決定会合を受け、マーケットが飛び跳ねた。2本目の矢で補正予算を組み、公共投資が日本経済を下支えしていく形になっているが、長期に渡って底上げしていくためには、3本目の矢である成長戦略が欠かせない。参院選前に出た成長戦略は日本再興戦略と呼ばれ、柱は産業の再興、戦略市場の創造、国際展開。もう1つは産業競争力強化法。産業構造の変化に合わせて、人も含めて成長産業に振り向けていく試みが見込まれる。さらに、東京を国家戦略特区に指定し、思い切った規制緩和をやり、外資もそこに呼び込んでいこうという趣旨だ。

2. アベノミクスの行方

(1) 実態経済の現状と

当面のリスク要因

4-6月期のGDP伸び率が年率換算で一気に3.8まで伸びた。設備投資が1年半ぶりにプラス転換したことが大きい。東京オリンピック開催が下支えとなり、これまで消費や外需で引っ張っていた日本経済は、もう1つの柱の民間設備投資が追いついていくという期待が徐々に盛り上がってきている。

ただ、東京と地方ではかなり温

度差があり、どうやってアベノミクスの効果を日本の隅々まで波及させるかということが、これからの安倍政権の大きな課題になる。

海外については、中国の経済政策がスピード一本槍から質を重視し始めている。今までのような高成長は望めないが、うまく安定成長の軌道に乗っていくことの方が大事だ。欧州はまだ南欧諸国の抱える問題が残っている。米国はFRBの量的緩和が解除されると、金利が上がり、ドルも徐々に上がっていくだろう。

(2) もう一つの壮大な実験

浜田宏一エール大学名誉教授は「アベノミクスは1つの壮大な社会実験だ」とよく言うが、もう1つの壮大な実験は日本政府の財政。国の借金はとうとう1,000兆円という天文学的な数字になった。

予定通り消費税率を来年4月に引き上げるだろうが、3%分引き上げた影響（経済の失速）をどこまで緩和するかの対策に、政府は最大限取り組みようとしている。それは、①オリンピック開催が決まったことで、公共事業の実施。②設備導入についての投資減税。あるいは法人税の実効税率を5～10%くらいは引き下げるというメッセージを打ち出す可能性もある。③再生医療の最先端研究支援。④消費増税で1番大きな影響の出る低所得者向けの現金給付。

それにより、来年の4-6月期の成長の落ち込みを極力抑えて、その後、2015年10月に8～10%に引き上げる。もちろん、10%に上が

っても社会保障費がかさむ今の日本の財政がそれで済むわけがない。消費税10%も1つの通過点に過ぎない。

(3) 異次元緩和のリスク

4月4日の異次元緩和の衝撃的な発表の1つは、2年で2%のインフレ目標。ただ、問題は物価ではなく、賃金がどうなるか。今や3人に1人が非正規雇用。ベース自体が低いので、日本全体の雇用者報酬が物価の伸びを上回って消費者に行き渡るかどうかは、来年は消費税も加わるため、疑問視せざるを得ない。

それと、異次元緩和で資金を大量に流しているが、いずれ出口を探る時がやってくる。大量に買った国債をいっぺんに売ると金利が暴騰する恐れがある。金利の急騰を抑えながら徐々に正常な姿に戻すのは難しいことだが、うまくやらないといけない。

(4) その他の注目点

東京オリンピック2020年開催が決まり、日本に1つ大きな目標ができた。その神風を一過性のものに終わらせないためには、いろいろと手を打っていく必要がある。

1つはTPP交渉。最大の焦点となっている農業は、アジアへ目を向けると、これほど確実な成長が保障されている産業はない。成長戦略と一体となった農業改革をTPPを機に進めていただきたい。

もう1つはエネルギー問題。世界的に見ると今、エネルギー事情は大転換している。アメリカから安いシェールガスを輸入できるようになれば、産油国との交渉も日本の立場が強くなる。

アベノミクスの効果が日本の隅々まで波及するためには、政策やオリンピック特需を当てにするのではなく、我々自らが挑戦していかなければなりません。

感動を提供してぶっちぎる 200年に向けChangeを意識

朝日印刷株式会社
代表取締役社長

濱 ^{ひさし} 尚 氏



創業140年の昨年、39歳の若さで10代目の社長に就かれました。

現会長である義父朝日重剛も39歳で社長に就いています。やってみるということでしょう。幸い、支えてもらう先輩や同僚をはじめ良いメンバーに囲まれ、みんなが仕事をしやすく、モチベーションが上がるよう環境を整えるのが私の役割と考えます。

一変化の風を社内に吹かすー社長就任にあたり、スローガン「Change For The Future! 印刷包材提供企業から感動提供企業へ」を掲げられました。

3年前に朝日重紀常務（義弟）とともに30～40代の面白いことを言いそうな若手社員約30人に声をかけて「夢創造委員会」を立ち上

げ、約1年半、月1回集まり、どういう会社にすればいいかを肩書き抜きに議論を重ね、大枠を作りました。スローガンは、単なる印刷屋ではなく、感動を与えられる会社になることとし、その思いを「チェンジ」「感動」「ぶっちぎり」のキャッチフレーズにまとめ、各部署に貼っています。“ぶっちぎり”は委員会メンバーの一人が発し、全員が良いねと反応した言葉です。

その後、メンバーを約半分にした「夢実現委員会」で、夢をどう実現させるかを話し合いました。そのメンバーが現在、中堅社員としてそれぞれの職場で活躍しています。今は年1回集まって近況を報告し合っています。忙しい現実と夢との狭間でジレンマがあるようですが、自分たちの子供や孫の世代も入社したい会社であるよう、お互い夢を持ち続けて創業200年に向け進んでいきます。

「チェンジ」に込めた思いとは。

好調な医薬品メーカーさんに支えられ、忙しく仕事をさせて頂いています。試行錯誤をしていますが、増える仕事をこなすだけになりがちです。今後10年は高齢者人口も増え、薬の需要は増えるでしょうが、その間に、どんな変化が来ても対応できるような強さと柔軟性を身につけておかないと、本当の困難にぶつかった時に乗り越えられません。

私の前の会社がNTTという変化の激しい業界だったこともあると思うのですが、常に危機感を持ち、変化に対応できる人間、組織を作らなくてはならないと思っています。変わるといふ風を起こしたいと、常に自分の言葉で社員に伝え、組織を変え、新しい工法を導入するなど取り組んでいます。

社員とのコミュニケーションはどのように。

現場の生の声を聞くため、例えば月1回は工場回りをしています。元々、営業をしてきたので、営業スタッフとは大体面識がありますし、富山では非公式で社員との飲み会に参加したりしています。社員教育は「あさひスクール」と銘打っておられるそうですね。

5～6年前から全社共通の教育体系を組んでいます。毎年、各部署から選任して教育委員会を組織し、内容を決めます。外部講師を呼ぶ一般的な研修のほか、社員が講師となり、入社5年目くらいまでの社員に、安全や品質、ISOなど、知っていなければならない基本的なことを教えます。他部門の仕事も分かりますし、教える人間の勉強にもなります。

一海外進出と県外生産拠点一

医薬品向けパッケージ印刷では国内シェア・ナンバーワンで、売上げは右肩上がりです。

約80%が医薬品向け、その他は化粧品向けなどです。一般商業印刷の比率が半分頃もありましたが、昭和30年代前半に現会長の父が「難しい薬向けに特化する」と大英断し、商業印刷を他社へ譲りました。売上げは半分になりましたが、新生朝日の基礎をつくりました。県外へ初進出は1964年で、

略歴

1972(昭和47)年6月生まれ。七尾市出身。立命館大学経営学部卒業後、1995年日本電信電話(株)へ入社し、富山と東京で法人営業に携わる。2002年朝日印刷(株)入社、2006年取締役企画開発本部長・営業企画室長、2008年常務、2009年代表取締役専務営業本部長、2012年4月から現職。



富山のお客様の仕事の関係でご縁があり東京へ営業所を出しました。その後も、富山の薬向けに仕事をしていることが信頼され、販路が拡大。当初は地方で雪国であることを敬遠されましたが、薬に特化した難しい分野を手がけていることを理解頂き、さらに設備を近代化していく中で、大手メーカー様の仕事もさせてもらえるようになりました。富山の製薬メーカー様に育てて頂いて今があります。

今では全国に19の販売拠点を構えています。

2000年頃からお客様により密着するため、各地に営業所を作ってきました。90%以上のお客様を50km圏内でカバーしており、何かあった時にすぐに対応できる体制を整えています。

昨年8月にシンガポールに駐在員事務所を設置され、海外に初めての拠点を置かれました。

私どものお客様である医薬品と化粧品の業界は、今後、海外進出の動きが具体化してきます。その際に当社としてどんなサービスができるかを今のうちに調査しておこうと立ち上げました。シンガポールは安全で、情報が集まり、アクセスしやすいことを考え、選びました。アセアンをはじめ、欧米も含めた海外の情報を収集する拠点です。

海外生産もお考えですか。

医薬品業界は安全性を求める消

費者意識も強く、まだまだ国内生産が主流です。いずれ動きが出た時に手が打てるよう、今のうちから情報収集に当たります。最終的に海外に製造拠点を持つことになるかもしれません。

京都にも工場を建設されるとか。

木津川市で2015年に稼働を予定しています。品質、コスト、時間、性能すべてにおいて、今までにない画期的なラインを導入します。初めての設備なので、まず婦中町にある富山第二工場と同じラインを稼働させ、今年度中に調整して最高のパフォーマンスに上げる予定です。

これまで製造拠点は県内だけで、四国や九州のお客様は納品までに中1日かかっていますが、京都工場が完成すれば納期は短縮できます。また、2015年春の北陸新幹線開業で東のお客様との距離感は狭まりますが、逆に西のお客様は心理的に遠くなると思われ、京都に建設することにしました。東日本大震災をきっかけにリスク分散の意味もあります。本社ビルを富山市一番町で建設される準備も進んでいます。

北陸銀行さんと共同のオフィスビルで、敷地の一部は明治の時期に当社があった場所です。来年末に完成させる予定です。変化しながらも、富山の薬と共に歩んで来た原点は忘れません。

会社概要

朝日印刷株式会社

創業：1872(明治5)年
所在地：富山市大手町3番9号
資本金：15億1,400万円
事業内容：印刷・包装資材の製造、販売
従業員数：1,075人(2013年3月現在)
売上高：連結 313億2,000万円
(2013年3月現在)
事業所：富山、東京支店、大阪支店、名古屋支店、新宿支店、ほか東北から九州まで営業所 14カ所
関連会社：阪本印刷(株)、協和カートン(株)、(株)ニッポー、(株)スリーエス、朝日人材サービス(株)

高齢者雇用に関する調査

(調査期間：2013年8月1日～8月30日)

2013年4月1日に改正高齢者雇用安定法が施行されたことに伴い、高齢者雇用に関する対応状況等について調査を実施し、172社から回答を得た。

<結果概要>

1. 現在の定年年齢は60歳という回答が91.9%を占めており、大部分の企業が定年年齢の引き上げではなく継続雇用制度で対応している。

高齢者雇用確保措置には①定年の引き上げ、②継続雇用制度の導入、③定年のための廃止、があるが、「定年制度あり」の回答が100%であった中で「定年年齢60歳」の回答が91.9%を占めており、大部分の企業が継続雇用制度で対応していることが明らかになった。

なお、勤務形態は「定年前と同じフルタイム勤務」が最も多かった。

2. 今後の人件費総額は「あまり変わらない」が47.7%で最も多く、また、今後の採用動向も「影響はない」が最も多い。

今後の人件費総額については「あまり変わらない」が47.7%で最も多く、「やや増加する」が45.3%、「やや減少する」が6.4%で続いている。また、今後の採用動向(複数回答)についても、「採用状況に影響はない」が116社で最も多く、「中途採用を今後減らしていく」が33社、「新卒者の採用を今後減らしていく」が29社で続いている。

3. 60歳以降の再雇用従業員の賃金水準は、「定年直前の6割程度」が最も多い。

定年直前の年収に対して「一律の削減基準あり」が46.5%で最も多く、「一律の削減基準はない(対象者毎に個別に決定)」が37.2%、「一律の削減基準を適用する社員と個別に決定する社員を併用」が16.3%となっている。

また、一律の削減基準については「定年直前の年収の6割程度」が45.6%で最も多く、「7割程度」が25.4%、「5割程度」が13.2%と続いている。

女性社員意識調査

(調査日：2013年8月8日および9月5日)

2013年8月と9月に実施した「女性社員活性化セミナー」および「女性リーダー活性化セミナー」の参加者を対象に「仕事と生活の両立等に関する意識調査」を実施し、全員(90名)から回答を得た。

<結果概要>

1. 管理的部門等(管理監督者)への女性の登用が未だに少ないと感じている回答が82.2%(74名)を占めた。その理由としては(複数回答)、「男性中心の職場慣行があるから」が最も多く、「女性自身が管理的部門等につくことに消極的だから」が2位となっている。

当協会では、昨年より同様の調査を行っており、女性の登用が少ないと感じているという回答は昨年より1.0%増加した。また、その理由についての回答は、1位と2位は昨年と同じであったが、昨年は2位～4位が同数であったのに対し、「登用する側に男性優先の意識や女性管理職に対する不安があるから」が3位に、「女性の職域は、主として補助的業務などに限られているから」が4位に後退した。

2. 企業による「仕事と生活の調和が実現された社会」に必要な取組みとしては(複数回答)、「年次有給休暇を取得しやすい職場づくり」が最も多く、「育児・介護休業を取りやすく、復帰しやすい仕組みづくり」、「育児・介護で仕事を休んでも不利にならない人事評価制度」がこれに続いている。

企業による取組みについての回答は、上位3位まで項目、順位ともに昨年と同じであったが、昨年6位であった「フレックスタイムや在宅勤務、時間短

縮勤務など柔軟な働き方の実現」が4位に上昇した。

3. 「仕事と生活の両立」を推進するために自社に対して望むこととしては(複数回答)、「残業が少なく、休暇を取りやすい職場環境」と「育児休業制度など仕事と子育ての両立のための制度の充実」の2項目が同数1位(59名)で、特に多かった。

自社に対して望むことの上位2項目は昨年も特に多かったが、昨年は「残業が少なく～」が1位(42名)で、「育児休業制度など～」は2位(41名)であった。

4. 行政による取組みについては(複数回答)、参加者の80%(72名)が「育児や介護の施設・サービスの充実」と回答しており、行政の積極的な対応に期待している。

行政による取組みについての回答は、「育児や介護の～」が1位で、「雇用確保など女性・高齢者等の多様な働き方に対する支援」が2位(50名)となっている。今回は昨年と1位・2位が逆転してその差も開いており、また、参加者からは「働く上で女性は育児・介護は避けて通れないため、施設を充実して欲しい。」、「企業の意識改革に行政が積極的取り組みで欲しい。」など、行政に対して期待する声が多かった。

業 務 日 誌

2013年 8月10日～10月6日

	事 業 名	委員会名	開 催 日	場 所	参加者数
会 議	人事・労務政策委員会「定例委員会」	人事・労務政策	8月21日(水)	富山経協・研修室	19名
	総務交流委員会「定例委員会」	総務交流	8月28日(水)	富山電気ビルディング	16名
	環境委員会「情報交換会」(第2回)	環 境	8月28日(水)	富山経協・研修室	8名
	教育委員会 研究部会(第2回)	教 育	8月29日(木)	富山経協・研修室	7名
	環境委員会「定例委員会」	環 境	8月30日(金)	富山経協・研修室	19名
	品質管理委員会「定例委員会」	品質管理	9月10日(火)	富山経協・研修室	20名
	労働法関連法制研究部会(第2回)	人事・労務政策	9月11日(水)	富山経協・研修室	14名
	理事会		9月13日(金)	富山第一ホテル	9名
	富山地区会員懇談会		9月13日(金)	富山第一ホテル	167名
	教育委員会 研究部会(第3回)	教 育	9月27日(金)	(株)不二越本社	7名
	環境委員会「情報交換会」(第3回)	環 境	9月27日(金)	富山経協・研修室	8名
	富山経協ゴルフコンペ	総務交流	9月28日(土)	呉羽カントリークラブ	31名
見講 学演 会・	県生活環境文化部との情報交換	環 境	8月30日(金)	富山商工会議所ビル	36名
講 座 ・ セ ミ ナ ー	実践しながら学ぶ統計的手法活用講座	品質管理	8月22日(木) 9月 5日(木)・27日(金)	富山経協・研修室	19名
	品質工学実践講座	品質管理	8月23日(金)・9月20日(金)	富山経協・研修室	9名
	「ものづくりと現場改善」実践塾	教 育	8月26～27日(月～火)	富山県農業総合研修所	23名
	女性リーダー活性化セミナー	教 育	9月 5日(木)	富山商工会議所ビル	44名
	管理職マネジメント研修	教 育	9月 6～7日(金～土)	富山県農業総合研修所	28名
	ヒューマンエラー対策講座 実践編	品質管理	9月11・12日(水・木)	富山県市町村会館	53名
	労働法実務研修会(第2回)	人事・労務政策	9月11日(水)	富山商工会議所ビル	36名
	TQM経営者ミーティング	品質管理	9月19日(木)	富山電気ビルディング	14名
	改善力養成講座～基礎編～	教 育	9月25日(水)	富山商工会議所ビル	39名
ISO14001内部環境監査員養成コース	環 境	9月25日・26日(水・木)	富山県労働基準協会	67名	



総務交流委員会

■定例委員会

8月28日(水)、武内委員長はじめ委員16名が出席して富山電気ビルディング会議室で開催した。



武内委員長の挨拶の後、2013年度事業実施状況についての報告と今後の事業計画について審議を行った。

報告事項は、①定期調査の実績は、回答企業数が昨年を上回った

こと、②緊急調査では、「高年齢者雇用調査」および「女性社員意識調査」の中間集計の内容、③県外企業見学研修会は、経営企画委員会との共催で11月19日(火)～20日(火)に長野県のオリオン機械(株)・伊那食品工業(株)を訪問すること等。

審議事項については次の通り決定した。①婚活に関しては、引き続き情報収集を進めるとともに、当経協でも婚活の取り組みについて検討を進める。また、実績をフォローできるような対策を考える。②「経営者勉強会(仮称)」の開催については、事務局で検討を進め、企画案が固まった時点で委員長・副委員長に報告する。

■第118回 富山経協ゴルフコンペ

9月28日(土)、呉羽カントリークラブ・日本海コースで開催した。爽やかな秋晴れの絶好のコンディションに恵まれ、総務交流委員会・ゴルフ幹事会の山田部会長による挨拶の後、31名の参加者はアウト・イン各4組でスタートした。

プレー終了後の懇親会では、お互いのショットについて話が盛り



優勝の綿貴氏(左)へ
山田部会長からトロフィーの贈呈



表紙の花 サフラン

南仏料理のブイヤベスやスペイン料理のパエリアに欠かせないのが黄色い色と風味を着けるスパイスのサフランで、これはアヤメ科の球根植物サフランの花の雌しべの先を摘み取って乾燥させたものです。写真の赤い部分が雌しべで、先が3つに分かれているので3本あるように見えます。なお黄色い棒状のものは雄しべで、これは本当に3本あります。スパイスのサフランは、およそ150個の花から1gしか取れず、しかも一つ一つ手摘みで収穫するため最も高価で、そのためトウモロコシのヒゲを着色したものなど昔からよく偽物が作られました。生薬としては番(蕃)紅花(ばんこうか)と呼ばれ、カロテノイドや精油成分が含まれ、鎮静、鎮痛、通経作用があるとされています。

サフランは地中海地方原産で、早春に咲く園

芸植物のクロッカス(花サフラン)と近縁な植物ですが、晩秋に咲き、もっぱら薬用、スパイス用として栽培されています。花が終わった後に細い葉が長く伸びて生育しますので、冬はやや乾燥気味に栽培し、春に葉が黄色くなった頃球根を掘り上げて涼しい所で夏越しさせ、9月頃植え付けます。

同じ秋咲きで、名前と姿形がよく似た植物にイヌサフランがありますが、こちらは有毒なので気をつけなければいけません。過去に、葉をギョウジャニンニクやミョウガと間違えて食べた中毒事故が起こっており、死亡例もあります。イヌサフランはイヌサフラン科(旧ユリ科)の全く別の仲間の植物で、園芸店ではコルチカムという名前でも流通しています。

(富山県中央植物園 中田政司)



イヌサフラン(有毒)

上がり、和やかな雰囲気の中で親睦を深めた。

主な結果は右記の通りで、トナミ運輸(株)の綿貫社長がグロス101、ネット72.2で優勝した。

<上位成績> (敬称略)

	氏名	(会社名)	グロス	ハンデ	ネット
優勝	綿貫 勝介	(トナミ運輸(株))	101	28.8	72.2
準優勝	長谷川 哲也	(日本興亜損害保険(株)富山支店)	89	15.6	73.4
3位	藤根 太	(富山エフエム放送(株))	86	12.0	74.0
4位	島倉 正	(株)チューリップテレビ)	104	28.8	75.2
5位	荒引 二巳雄	(武内プレス工業(株))	97	21.6	75.4

人事・労務政策委員会

■定例委員会

8月21日(水)、綿貫委員長はじめ19名が出席して、富山経協・研修室で開催した。今回は(株)損害保険ジャパンCSR部上席顧問の関正雄氏を講師に招き、「ISO26000がこれからの企業のCSRを変える」と題し、①企業の社会的責任の最新動向と、②社会的責任規格ISO26000の概要、③企業としてどう取り組むべきかについて講演頂いた。



ISO26000では持続可能性と人権が大きなトピックとなっており、これを受けてCSR部門は「企業と人権」というテーマに関心を持たざるを得なくなっている。これまで日本企業は熱心に環境問題に取り組んできたが、人権については若干、弱いところがあった。人権を尊重するために、組織が自らの活動及び関係先の活動から生じる人権への影響を特定し、防止・対処するプロセス(デューデリジェンス)を行うことや、人権侵害への加担を回避することが求め

られている。自らが直接的に人権侵害に加担しなくても、自社の影響が及ぶ範囲で人権侵害(例えば調達先での児童労働など)が行われていた場合に改善のための積極的な努力をしないと、人権侵害への暗黙の加担とみなされる可能性がある。

企業にとっては厳しいが、環境問題への取り組みにおける原材料調達時のトレーサビリティと同様の考え方で対応することが必要になるとの見解が示され、活発な質疑応答が行われた。

■労働法実務研修会(第2回)

9月11日(水)、「インターネット、メールおよびSNSを巡る労務管理上の諸問題」をテーマに、36名が出席して富山商工会議所ビルで開催した。

講師の第一芙蓉法律事務所の木下潮音弁護士は、IT機器とITサービスの発達に伴い、場所・時間・上司による拘束性が薄れる働き方が可能となり、仕事とプライベートの区分もあいまいになるなど利便性の向上とともに、職場の働き方に変化を生んでいると指摘した上で、適正な労働時間管理を行うためのポイントを、実際のシーンを想定しながら解説した。

また、ニュースなどで問題となっている不適切なSNSへの投稿については、あらかじめ私用携帯

電話の職場持ち込み禁止、職場内撮影禁止、インターネットへの投稿禁止などを、職場秩序維持、使用者の施設管理権に基づいて義務付けることが可能であり、違反に対しては懲戒処分や損害賠償請求を行うことも可能であるなど、具体的な対応策を示した。

さらに、私生活でのITサービス利用においても企業の体面を傷つけるような不適切な行為は懲戒処分の対象になりうること、業務秘密や個人情報を管理する際には情報の管理権限を明確化した上で持ち出し・持ち込み両方とも規制する必要があることなど、情報リテラシーやセキュリティの観点から企業が留意すべき点を明快に解説した。



教育委員会

■女性社員・女性リーダー 活性化セミナー

8月8日(木)、一般職の女性社員46名が参加して、女性社員活性化セミナーを富山商工会議所ビルで開催した。

金城大学短期大学部 岡野絹枝教授から、中堅社員として果たすべき役割と立場、女性のキャリア形成とこれからの働き方、自分の棚卸し、仕事を進めるためのコミュニケーションのスキルアップなどについて、レクチャーやグループワークを通して学んだ。

プロフェッショナルな社員としての役割を強く認識し、職業能力を積極的に開発し、仕事に対して常に前向きに取り組むことが重要であるとした。



また、9月5日(木)には、リーダー・指導職44名が参加して、女性リーダー活性化セミナーを富山商工会議所ビルで開催した。

自らのキャリアについて振り返り、自己実現について考えるとともに、部下や後輩の指導育成、職場における合意形成、問題解決・改善や社会貢献などについて異業種交流を通じて学んだ。

自分の仕事の進め方を見直したり能力開発を行ったりするだけで

はなく、職場において積極的にリーダーとしての役割を果たすという心構えが重要であるとした。

(「参加者NOTES」10頁掲載)

■「ものづくりと現場改善」 実践塾

8月26～27日(月～火)、23名が出席して、富山県農業総合研修所で開催した。

この講座は、①グローバル化時代の中で、ものづくりの基本について学び、考え、相互啓発を図る ②自分の役割を再認識し、「人間力」を発揮し、部下とともに改善を推進する力や方法について学ぶ ③ものづくり現場での工程改善、作業改善など、考え方、方法、実践スキルなどの着眼点について学ぶ中で、果敢に挑戦するリーダー



参加者NOTES

教育委員会

「女性リーダー活性化セミナー」を 受講して

株式会社シキノハイテック
製造部 製造課

松本 梨絵



私自身、セミナーへの参加が初めてだったので、内容についていけるのか、どんな雰囲気なのかと不安に思いながらの参加でしたが、明るく気さくな岡野講師をはじめ、参加者全員女性ということもあり、そんな不安も消え、あっという間の楽しい研修となりました。

内容は、講義の他に2～4人でのグループワークを行いました。午前中の講義の中で、特に印象に残っているのは、心のおきどころを変えると、いろんな見方ができるというお話です。あの頃に戻りたいという考え方も、あの経験が

あるから今の私があるという考え方も、心のおきどころの違いからくる考え方の違いで、単なるポジティブ、ネガティブとは違う「心のおきどころ」という言葉に、すぐ惹かれるものがありました。

午後のグループワークでは、「傾聴」「観察」「共感」のトレーニングを行いました。リーダーのあるべき姿のイメージとして「俺についてこい!!」と言うような人物を思い描いていましたが、それはごく一部のカリスマ的な人にもみ当てはまることで、今の多くのリーダーには人の能力を引き

出すことができることが求められており、それに必要不可欠な人の話を聞く能力を養い、明るく振る舞うことが上手くできるようなトレーニングでした。

お互いに何をしているのか全く知らない初めてのグループメンバー間で、傾きやあいづちの打ち方、相手の良い所を見つけていくといったような内容のトレーニングをしたのですが、終わりの頃にはグループ内のメンバーが、お互いよく知っている人かのように打ち解けていたのは、まさにこのワークをやった成果なのだと思います。態度や言葉一つでお互いの気持ちの伝わり方が全く違うのだなと改めて実感し、仕事のみに限らず、普段の生活においても自身の一つ一つの言動に活かしていきたいと感じました。

を養成することを目的に実施している。

講師の棚邊一雄M&P研究所代表が2日間にわたり、各ステップごとに、①リーダーとしての役割を再認識する ②現場の問題の見つけ方を学ぶ ③リーダーの資質について考える ④発表、講評、決意表明を行うなど、各自の理解度を確認しながら指導した。

また、萩野利夫となみの工業(株)専務取締役からは、トヨタ生産方式の概要と標準作業の概要、TPM (Total Productive Maintenance & Management) について解説があり、改善活動を進めるにあたって必要



となる作業時間、設備効率の観測、分析の手法を学んだ。

(「参加者NOTES」11頁掲載)

■管理職マネジメント研修

9月6～7日(金～土)、第6回目の管理職マネジメント研修を28名が出席して富山県農業総合研修所で開講した。

この研修は、いかなる経営環境にあっても、企業目標を達成し、働く人々の意欲を高めることは経営者としての不変の責務であることから、他社の同じ目的・課題意識をもった管理職同士が「他流試合」的に集って、経営・ビジネスのセオリー・基礎を習得し、それを現場実践に応用直結させることを狙って実施している。部下と上司の相互学習を促すような評価的フィードバックを勘案し、併せて社外人脈ネットワークの構築も積極的に行う。

講師は、(株)フォーワン 植木悟



代表取締役、羽田野正博中小企業診断士が担当し、マネジメント、マーケティング、経理・財務知識、キャリア・デザイン他をテーマに、来年5月17日まで9回、3回の合宿研修を含む延べ12日間で開催する。終了後も「同期会」での交流を継続して行う。

第1会合は「経営観の基礎」について学んだ。第2会合は「コミュニケーションスキル～対話合意形成～」について演習を通して学ぶ。



参加者NOTES

教育委員会

「ものづくりと現場改善」実践塾 を受講して

戸出化成株式会社
成形課 主任 関 泰幸



ものづくりと現場改善(課題に果敢に挑戦するリーダーの養成)をテーマに、内容は第一ステップ「リーダーとしての役割の再認識」、第二ステップ「5S・自主保全活動等のやり方を通して現場の問題の見つけ方を学ぶ」、第三ステップ「リーダーの資質について考える」、第四ステップ「講評・決意表明」という構成で、5グループに分かれて討論をしながら講義を受けさせて頂きました。

たった2日間の受講でしたが、私自身リーダーになったばかりで知識、経験もなかったので、今回の研修は大変勉強になり、いろいろ考えさせてもらいました。

その中でも特に印象に残ったのは、自らの感性を磨くということで、会社では現場で仕事をしているので、感性を磨いて問題を見つける力をつけていきたいと思っています。手始めに5Sを自分から進んでやりたいのですが、一人では限

度があります。現在、4人の社員が下にいますが、コミュニケーションとお互いの信頼関係が大事で、それにより部下のやる気を引き出し、部下をその気にさせて5Sを推進していきたいと思っています。

また、となみの工業(株)専務取締役 萩野先生にはトヨタ生産方式の概要、標準作業の概要、TPMと設備総合効率なども講義して頂きました。基本的な考え方として、徹底したムダの排除・造り方で原価は変わる・原価主義より原価低減など、自社でも少しずつ取り組んでいることなので勉強になりました。

棚邊先生の講義、萩野先生の講義を受講できて、大変ありがたかったです。

■改善力養成講座

～業務改善・基礎編～

9月25日(水)、39名が出席して、富山商工会議所ビルで開催した。

日本HR協会KAIZEN事業部「創意とくふう」編集人 東澤文二講師は、経営環境の激変期こそ改善の強力推進が必要で、手間をかけず、カネをかけず、知恵を出して「工夫」する改善が大切であると力説した。問題の裏返しや見える化などの改善の方程式・定石・



公式について、工場や店舗などの様々な事例を通して学ぶとともに、改善メモを短時間で作成する実習も行った。改善の定着化、活性化

を図り、改善力・完全指導力をつけるには改善事例と定石の組み合わせの大量蓄積が重要であり、とりあえず職場で実践してみることが重要であるとした。

来年3月13日(木)に、改善活動を「指導・推進・牽引」するための具体的ノウハウを研究し、改善エキスパートを養成するため、「改善力養成講座～業務改善・応用編～」を開催する。

品質管理委員会

■定例委員会

9月10日(火)、町野委員長はじめ委員20名が出席して、富山経協・研修室において開催した。



町野委員長挨拶の後、2013年度中間事業報告と今後の活動予定について審議を行った。事務局から、終了した講座のうち、「実践しながら学ぶ統計的手法活用講座」、「品質工学実践講座」、「方針管理実践講座」の3つについて参加者が減少傾向であることの報告と、10月2日開講予定の「品質管理入門講座(応用編)」について、参加申し込みが非常に少ないため、委員企業の協力をお願いした。

町野委員長からは、次回定例委員会において、参加人数が減少傾向にある上記3つの講座について、グループ討議を行い、次年度開催に向けた問題点など、委員の皆さまから幅広く意見を頂きたいとの

提案があった。

会議の後、「三現主義(現場、現物、現実)による要因検証」をテーマに、3班に分かれ、委員企業における状況や問題点等についてグループディスカッションを行った。

■ヒューマンエラー対策講座

<実践編>

9月11・12日(水・木)の2日間にわたり富山県市町村会館において開催した。講師はパワーアップ研究所所長の市川享司氏とQCサークル上級指導士の高橋芳邦氏が担当した。9回目を迎えた今年は、幅広い職位・年齢層から53名の参加があった。

昨今、品質にかかわる重大事故や不祥事が後を絶たない中で、その陰にはいろいろな形で、ヒューマンエラーが潜んでいる場合が多く、それらへの対処が企業にとって大きな課題となっている。本講座に例年多くの参加者があることも、会員各社の関心の高さを示している。

講義では最近の事故事例や誘発メカニズム、要因解析、企業体質の分析などから、「ポカよけ」などの防止策へ進んだ。並行して行

われたグループ演習では自己紹介の後、持ち寄った各社の事例からグループごとに1つを選んで、ヒューマンエラー撲滅対策書の作成に取り組み、更に全体発表を行い、質疑応答を交わした。

業種も立場も違う受講者ながら、共通のテーマで活発な議論が尽くされ、事後のアンケートでも自社に戻ってからも活かしたいとの声が多く寄せられた。

(「参加者NOTES」13頁掲載)



■ TQM経営者ミーティング

9月19日(木)、14名が参加して、富山電気ビルにおいて開催した。

当講座は企業の役員を対象に、品質経営、TQM、役員の役割などについて学び、企業において活動を実践することにより、売上増大、利益率の向上につなげていけるよう、指針やヒントをつかむことをねらいに開催している。優良事例をもとに、自社の改善ならびに自らの行動について見直すため、毎回先進企業のトップを講師に招聘している。

今回の講師には、リコーエレメックス(株)代表取締役社長 鈴木将嗣



氏を招き、「自工程完結活動を主体としたリコーエレメックスにおける経営品質向上活動」と題して講演頂いた。同社は継続的な技術革新を通して価値を創出し続けることで、「お客様のNo.1パートナー」を目指している。

引き続き、3グループに分かれ

て「不良率(市場、工程内)低減のためのマネジメント」などのテーマについてディスカッションを行った。

参加者は、講義・グループディスカッションを通してTQMの推進について検討し、知見を共有した。



参加者NOTES

品質管理委員会



「ヒューマンエラー対策講座<実践編>」を受講して

十全化学株式会社
寺西 啓輔

講座は2日にわたり行われ、市川先生による講義とグループ演習が行われました。

市川先生は長年日産自動車に勤務され、QC手法により現場からの改善を実践された方です。講義で印象に残ったのは、ダブルチェックというのは同じことを2回行うのは価値がなく、別の手法を用いて行う必要があるというものです。日頃現場で実践している手法では不足しているということを説明されたとき、真に効果のあるヒューマンエラー対策を実践することは非常に難しいことなのだと感じました。

グループ演習では、他業種の方々と各々持ち込んだ問題についてQC手法を用いて解決をするという内容でした。議論は時間が足りなくなるくらい活発に行われ、仕事内容は異なっても、問題解決をしたいという全員一致の思いが感じられ大変有意義な体験をさせていただきました。より良い現場になるよう問題を皆で解決していく際にQC手法を用いて<実践>していきたいと思えます。



YKK株式会社
ファスニング事業本部
商品開発部 製法開発室
坂口 千賀子

今までは、ヒューマンエラーは自己の責任であり個人で対策するしかないと思っていました。しかし、今回の講義では「人間は誰でもエラーするもの」という事がまず前提なので、ヒューマンエラーを未然に防ぐシステムを設計・運用していく事が重要という考え方に驚きを感じました。そして、原因追求を行う事によって改善のポイントを探り、ミスを発見できる仕組みとミスを発生させない、再発しない仕組みを作る。また、それらを標準書として書式化し担当者が変わっても品質に影響が出ないように、継続した教育・訓練・OJTが必要不可欠であるとわかりました。

グループ演習では多種多様な具体的な例をもとに、ヒューマンエラー発生要因の洗い出し方、防止の考え方を学びました。いろんな職種の方々と交流が図れ、品質や安全に対する考え方も様々で意外な発見も多く、楽しみながら学習することができました。

環境委員会

■定例委員会

8月30日(金)、三鍋委員長はじめ委員19名が出席して、富山経協・研修室で開催した。



三鍋委員長挨拶の後、2013年度中間事業報告と今後の活動予定について審議した。三鍋委員長からは、来年度の計画に反映させるため、経協が今年度参加した北陸コカ・コーラグループが行っている「環境保全活動」について、委員企業の中でも同様の取り組みを行っているところを調査するよう指示があった。

その他、出席企業からの情報提供として、三協立山(株)立野井幹事より「三協立山企業の森づくり活動」についての紹介、YKK(株)野田幹事より「YKKグループのエネルギー改革」についての紹介、北陸電力(株)白江副委員長より「CO₂排出原単位およびCO₂排出量について」、「志賀原子力発電所敷地内シーム追加調査報告について」の説明と、委員企業に対し今夏の節電に対するお礼があった。

■富山県生活環境文化部との 情報交換

8月30日(金)、36名が参加して富山商工会議所ビルにおいて実施した。

今回は、環境政策課 八田主任より「循環型社会と低炭素社会づくりの推進について」、環境保全課 九澤課長補佐より「環境保全施策の動向について」、県民政策課 室主査より「水源地域保全条例の制定について」、農林水産部 牧野副主幹より「県民参加による多様な森づくりの取り組みについて」と題して、環境行政の動向を紹介頂いた。環境汚染の監視体制、最新の条例制定等興味ある内容であり、参加者からは活発な質問が寄せられた。

(「講演要旨」は15頁に掲載)



■ISO14001内部環境監査員 養成コース

9月25・26日(水・木)の2日間にわたり、67名が参加して、富山県労働基準協会において開催した。講師はムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション(株)環境審査員 和田浩志氏が担当した。



本講座は、自社の「環境マネジメントシステム」を公正かつ客観的に評価できる優秀な内部環境監査員の養成を目的としたもので、例年多くの参加者があることは、会員会社の関心の高さを示している。今年も、ものづくりの会員企業を中心に幅広い職位・年齢層から多くの参加があった。

講義では、実際の内部監査に役立つよう座学とロールプレイを組み合わせた、実情に合った効果的な監査の手順・方法について学んだ。

事後のアンケートでも「理解が深まった」、「自社に戻って活かしたい」との声が多く寄せられた。



循環型社会と低炭素社会づくりの 推進について

環境政策課 企画係 主任 八田 哲典



県では、平成24年4月に策定した「新・元気とやま創造計画」において、「安心とやま」の実現に向け「循環型社会と低炭素社会づくりの推進」を基本政策の1つに位置付けており、具体的な施策として、「廃棄物の排出抑制、循環的利用等の推進」、「温室効果ガス排出量の削減」、「環境教育の推進と環境保全活動の拡大」、「技術開発と調査研究の推進」を掲げ、積極的に取り組んでいます。

平成25年度は、レジ袋無料配布取止めに加え、資源回収など環境に配慮した取組を積極的に行う小売店舗を登録する「とやまエコ・ストア制度」の構築・普及啓発、節電行動を登録することで仮想の節電所を建設する「とやまメガ節電所プロジェクト」などの事業を展開しています。

今後とも、県民、事業者、民間団体等と連携を図りながら、環日本海地域の「環境・エネルギー先端県」づくりに向けて取り組むこととしていますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

環境保全施策の動向について

環境保全課 課長補佐 九澤 和英



水と緑に恵まれた豊かな環境を保全するとともに、より快適な環境を創造していくため、県では、環境の現状の把握や環境汚染の未然防止などの取組を総合的に進めています。

なかでも、県民の関心が高まっている微小粒子状物質（PM2.5）については、自動測定機を順次設置し、監視体制を強化してきたほか、高濃度のPM2.5が観測された場合には、関係機関と連携して速やかに注意喚起できる体制を整えました。また、環境放射線については、県内9か所でモニタリングを実施し、その結果をリアルタイムに公表するシステムを構築するとともに、新たに可搬型モニタリングポストやモニタリングカーなどの導入も進めています。さらには、豊かな水環境を実現するため、水生生物の保全に着目した新たな環境基準を県内の主要河川に当てはめるとともに、「とやま川の見守り隊」の募集なども行っています。

今後ともこうした取組を通じて、本県の豊かな環境の保全と創造に努めたいと考えています。

水源地域保全条例の制定について

県民生活課 水雪土地対策班
主査 室 信博



本県は「水の王国」と呼ばれ、高低差4,000mのダイナミックな地形に、ほぼ独立した水循環系が保たれています。先人たちは、この豊かな水資源を本県発展の礎としてきました。しかし、近年、全国的な利用目的不明の森林買収の増加や、世界的な人口増加、新興国の経済発展などにより、将来的な水不足が懸念されています。

これらの状況を受け、県は森林などの水源地域保全のため、今春「富山県水源地域保全条例」を制定しました。

本条例は、①行政をはじめ県民全体に水源地域の保全に配慮する責務・役割を規定、②水源地域は、森林、公共用水源とその周辺、湧水地などを指定、③土地所有者等は、水源地域における土地取引の契約の6週間前までに県への届出が必要、④県は関係市町村の意見を求め、必要に応じて届出者に対し指導・助言を行う、⑤無届や虚偽の届出などに対し、勧告・公表を行うとともに過料を科す場合がある、ことなどを規定しています。

本県の豊かで清らかな水を将来の世代に引き継いでいくために「水源地域保全条例」へのご理解とご協力をお願いいたします。

県民参加による多様な森づくりの 取組について

森林政策課 副主幹 牧野 吉成



本県の森林面積は、県土の約3分の2を占め、植生自然度においては本州随一を誇っています。この豊かな森林は木材生産のみならず、県土の保全、水源の涵養、地球温暖化の防止等の多面的な機能の発揮を通じて、私たちの日常生活に様々な恩恵をもたらしています。

しかし、里山林はライフスタイルの変化等により利用されなくなり、人工林は木材価格の低迷による採算性の悪化等により放置されるものが増えています。

このため、県では平成19年から「水と緑の森づくり税」を導入し、里山林や混交林の整備、森林ボランティア活動への支援など、多くの皆様にご参加いただいて、県民全体で支える多様な森づくりに取り組んでいます。

林業については、依然厳しい状況にありますが、魅力ある林業の構築に向けて、路網整備や高性能林業機械の導入、人材の育成、木材の利用促進などを図り、持続可能な林業経営の確立を目指しています。

会員の皆様には、本県の森林・林業行政に一層のご理解とご協力をお願いいたします。

新会員の紹介

■ 富山エフエム放送株式会社

所在地 富山市奥田町2番11号

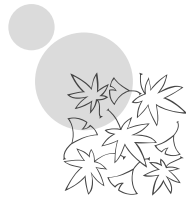
代表者 代表取締役社長 小山 孝義

設立 1984年(昭和59年)4月23日

資本金 6億5,000万円

従業員 21名

事業内容 FMラジオ放送



富山県の最低賃金

(地域別)

富山県のこれまでの最低賃金
700円から12円アップ↑

712 時間額
円

[発効日] 2013年10月6日

※産業によって、特定(産業別)最低賃金が定められているものがあります。
パートやアルバイトなどの雇用形態にも適用されます!

人材の確保・従業員の再就職をお手伝い!

事業の拡大・欠員補充等による
人員確保を行いたいとき

事業の整理・縮小等に伴い、
人員削減せざるを得ないとき

そんなとき、まっ先にご相談ください。



公益財団法人

since 1987

出向・移籍(転籍)の専門機関

産業雇用安定センター

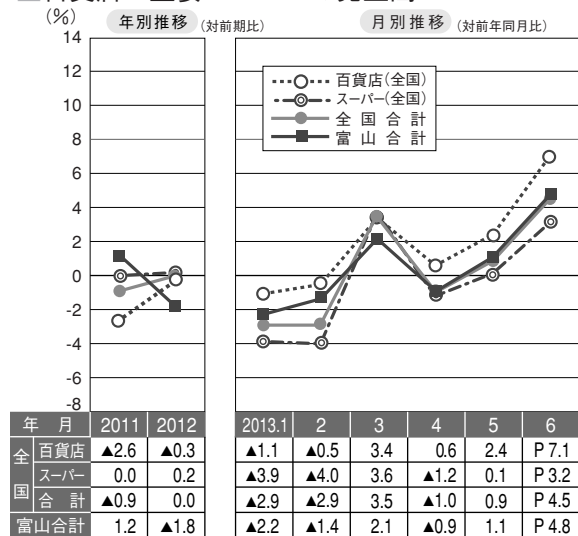
〒930-0857 富山市奥田新町8-1 ボルファートとやま10F TEL 076-442-6900

ご利用時間/9:00~17:00(土・日・祝日は休み) FAX 076-439-2860

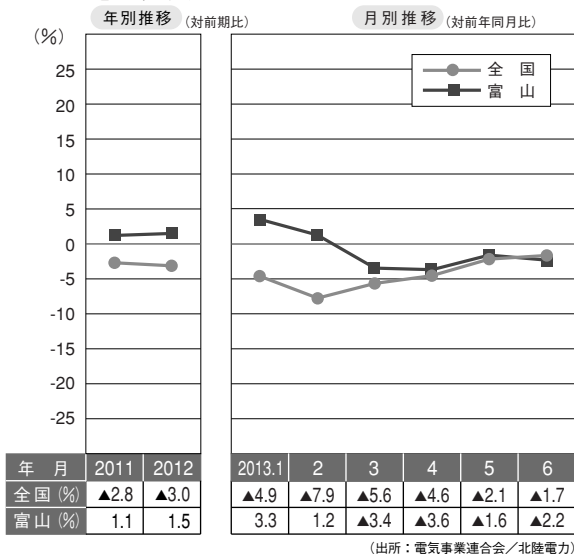
インターネットで最新の人材情報をどうぞ <http://www.sangyokoyo.or.jp/>

景況指標

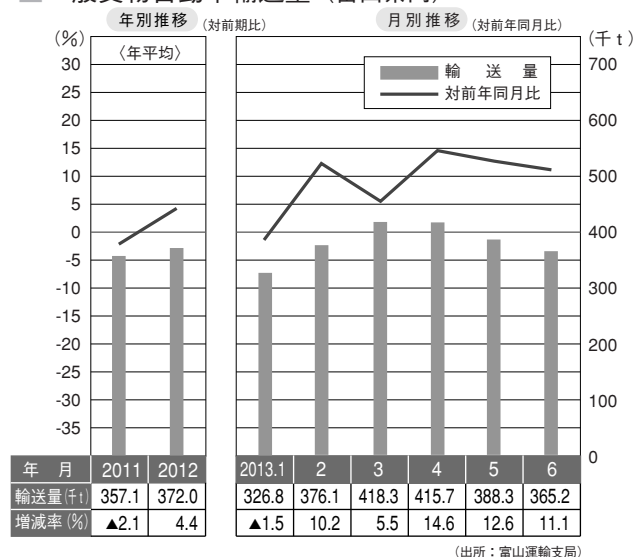
百貨店・主要スーパーの売上高



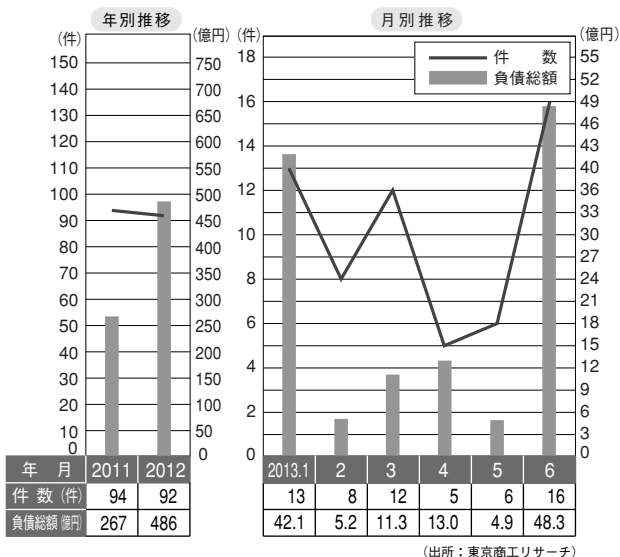
大口電力消費量 (製造業計)



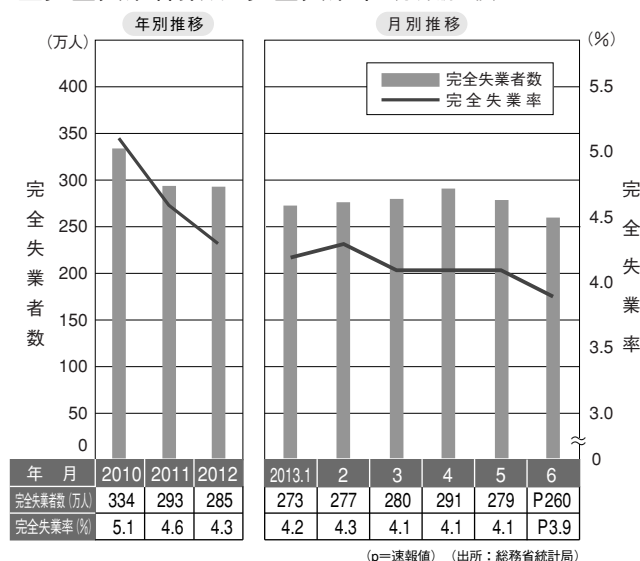
一般貨物自動車輸送量 (富山県内)



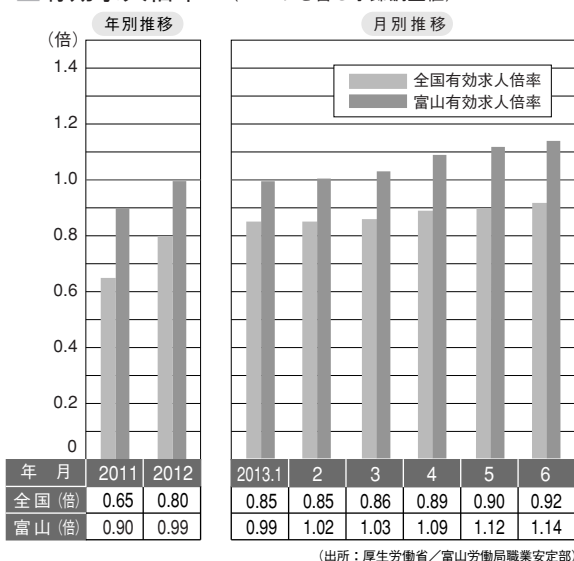
企業倒産 (富山県内) (件数と負債総額)



完全失業者数及び完全失業率 (季節調整値)



有効求人倍率 (パートを含む季節調整値)



お知らせ

◆ 東部地区会員懇談会 ◆

11月15日(金)

場所：ホテルグランミラージュ 2階「天翔の間」
魚津市吉島1-1-20 TEL (0765) 24-4411

◆ 17:40～18:40

講演会 演題「黒四スピリット」—人・使命・情熱—

講師：関西電力株式会社 北陸支社

支社長 吉津 洋一 氏

◆ 18:45～20:00

懇親会

事業予定

2013年 10月16日～12月15日

詳しくはホームページ (<http://www.toyama-keikyo.jp/>)
「講座・セミナー案内」をご覧ください。

	開催日	時間	事業名	委員会名	場所	備考
会 議	10月24日(木)	16:00～17:30	IT・インフラ委員会「定例委員会」	IT・インフラ	富山経協・研修室	
	10月28日(月)	14:00～16:30	教育委員会「研究部会」	教 育	北陸電力研修センター	
	10月29日(火)	9:30～15:00	環境委員会「情報交換会」	環 境	(株)北陸リサイクルセンター	
	11月15日(金)	17:40～20:00	東部地区会員懇談会		ホテルグランミラージュ	上記「お知らせ」参照
	11月18日(月)	16:30～17:30	教育委員会「定例委員会」	教 育	富山経協・研修室	
	11月19日(火)	16:30～18:00	労働法関連法制研究部会	人事・労務政策	富山経協・研修室	
	12月 3日(火)	16:30～17:30	経営企画委員会「定例委員会」	経営企画	富山経協・研修室	
	12月 5日(木)	16:30～17:30	環境委員会「定例委員会」	環 境	富山経協・研修室	
	12月 9日(月)	15:00～17:30	品質管理委員会「定例委員会」	品質管理	富山経協・研修室	
	12月20日(金)	16:30～17:30	教育委員会「定例委員会」	教 育	富山経協・研修室	
講 演 ・ 見 学 会	10月18日(金)	13:00～17:00	企業理念見学会	経営企画	北陸コカ・コーラ砺波工場	
	10月19日(土)	10:00～13:20	環境保全活動	環 境	旧オムサンタの森スキー場跡地	
	11月14日(木)	8:30～17:10	県外企業見学研修会	環 境	(株)トーケン、コマツ栗津工場	
	11月19日(火)	13:30～16:30	ものづくり品質管理セミナー	品質管理	高志会館	
	11月19日～20日	9:00～18:40	県外企業見学研修会	総務交流	オリオン機械(株)、伊那食品工業(株)	
講 座 ・ セ ミ ナ ー	10月18日(金)	13:00～17:00	実践しながら学ぶ統計的手法活用講座	品質管理	富山経協・研修室	
	10月18日(金) 11月20日(水) 12月 5日(木)	9:00～17:00	管理職マネジメント研修	教 育	富山県農業総合研修所	
	10月22日(火)	9:30～16:30	事務・間接部門の効率的業務改善の進め方コース	教 育	富山商工会議所ビル	
	10月24日(木)	9:30～16:30	ヒューマンエラー対策講座 応用編	品質管理	トナミ運輸年金会館	
	11月6～7日(水～木)	9:00～17:00	ISO9001内部監査員養成コース	品質管理	富山県問屋センター流通会館	
	11月8～9日(金～土)	9:30～20:00 8:40～15:00	管理職基礎コース	教 育	インテック大山研修センター	
	11月14日(木)	13:30～16:30	コスト改善力実践コース	教 育	富山商工会議所ビル	
	11月19日(火)	13:30～16:00	労働法実務研修会(第3回)	人事・労務政策	富山経協・研修室	
	11月26日(火)	9:30～16:30	経理・財務の基礎知識	教 育	富山商工会議所ビル	
	12月 4日(水)	9:30～16:30	5S十目で見える管理活動実践コース	教 育	富山商工会議所ビル	
12月 5日(木)	13:30～16:30	環境委員会事例発表会	環 境	富山商工会議所ビル		

「富山経協」vol.808

2013年(平成25年)10月号
2013年10月15日発行(隔月発行)

一般社団法人 富山県経営者協会

〒930-0083 富山市総曲輪2丁目1番3号(富山商工会議所ビル 別館5階)
TEL (076) 421-9588 FAX (076) 421-9952
ホームページ <http://www.toyama-keikyo.jp/>
Eメール info@toyama-keikyo.jp